
~ 純恋 ~ じゅんれん

禦螢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

純恋〜じゅんれん

【Nコード】

N1659F

【作者名】

禦螢

【あらすじ】

引越していた直人が地元へと戻ってきた。そして、幼馴染みである捺希と再会する。だが、捺希には……。

第一話：プロローグ／別れ

暑い・・・。

何故今日は、こんなにも暑いんだ。

夏だからしょうがない・・・と言われればそれまでなのだが・・・
俺はベットから起き上がった。
身体中が汗でベタベタする。

寝汗をかいたみたいだ。

学校に行くまで、まだ時間がある。

俺は急いで風呂場に向かい、汗を流した。

汗を流し終え、サッパリして食卓についた。

「あんた、そんなにノンビリしていいいの？」

そう言われて俺は、時計を見た。

「げっ！？もうこんな時間？」

俺は急いで家を飛び出して、学校に向かった。

結局汗をかく事になってしまった。

・・・何とか学校に間に合った。

「何だ！また遅刻してくるかと思ってたのによ。」

「そう何回も遅刻してたまるか。それに、今日で最後なんだからよ。」

そう……。俺にとってこの土地での高校生活は最後になる。

二年前の中学三年の頃、姉貴の仕事の都合でこの土地に引っ越してきた。

姉貴の仕事も一段落したから、また元の土地に戻る事になった。だから、コイツラともこれで最後になる。

案外、辛いもんだな。

俺にとって最後の授業は、淡々と進んでいった。

何時もは、長く感じられる時間も今は、早くて短く感じられる。

この風景や思い出は多分忘れないだろう。……。たぶん。

キンコンカンコン。

チャイムが鳴った。

最後の授業はこれで終了だ。

姉貴と妹は既に、学校の門の所で待っている。

「向こうに行っても元気でやれよ」

「お前もな」

何だかこういうのは照れ臭い。

一通り挨拶を終えた俺は、外で待っている二人の元へ向かった。

三人は駅で切符を買い、電車に乗った。

そして、俺が生まれ育った故郷へと向かって電車は走り出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1659f/>

～ 純恋～ じゅんれん

2010年11月10日14時30分発行